

農空間

第53号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

地域の力で農村環境を守る 農地・水保全管理の取組み

これまで、農地・農業用施設の保全や農村環境向上に大きな役割を果たしてきた「農地・水保全管理支払」制度の第Ⅱ期対策が本年度より始まりまし

「農地・水保全管理支払」制度(旧「農地・水・環境保全向上対策」)は、平成19年度から23年度まで第Ⅰ期対策が実施され、農地・農業用水等資源の保全管理や農村環境の向上に大きな成果を挙げてきました。有識者で構成する第三者委員会による第Ⅰ期対策の評価においても、

・地域ぐるみの共同活動により、農業施設の機能維持が図られている。

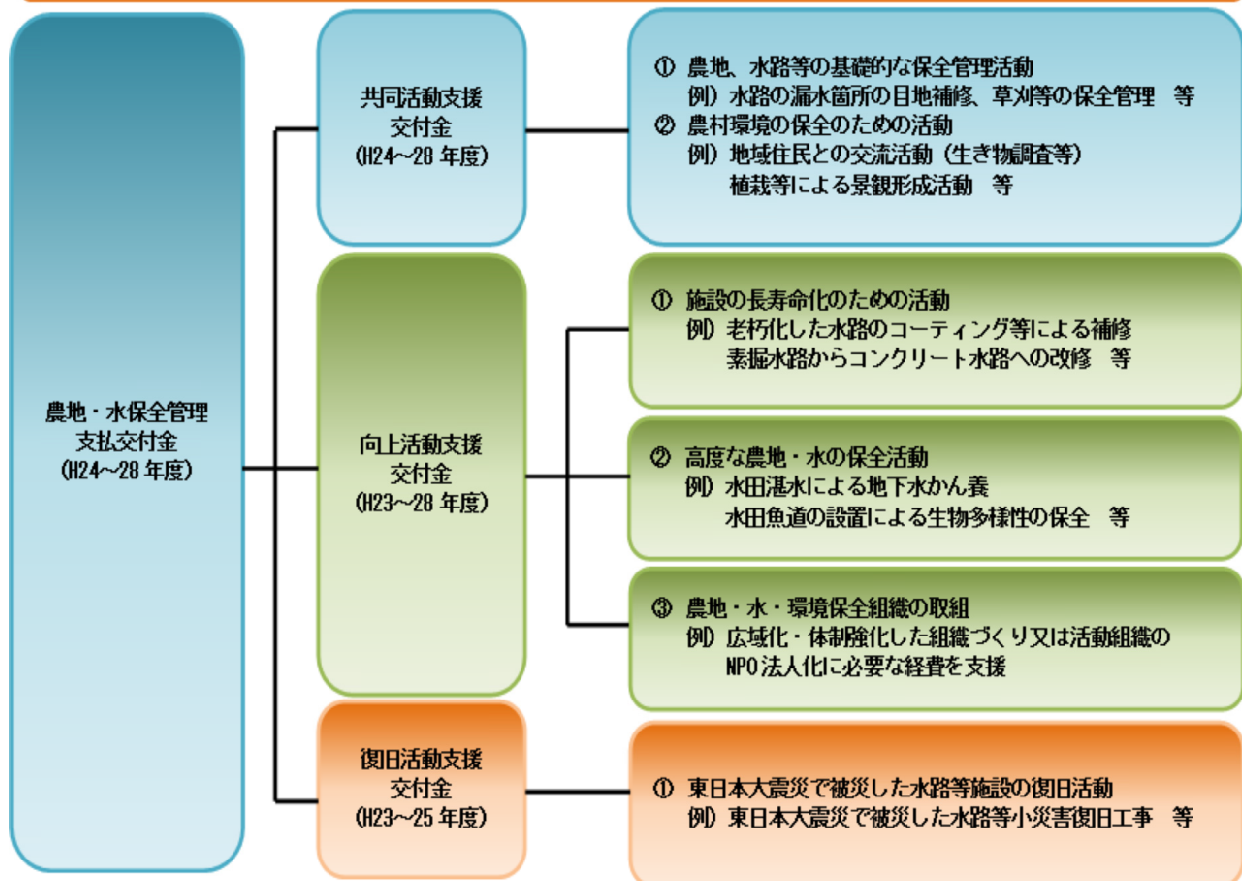
・農村の豊かな自然環境や景観の向上が図られている。

・本対策により地域の将来を考える「場」の提供が行われたことで、「地域のコミュニティ」の再構築や活性化が図られている。

などの高い評価を受けており、平成24年度から28年度の5ヶ年間、第Ⅱ期対策が行われることとなりました。

第Ⅱ期対策については、農地・農業用水等資源の保全管理を行う共同活動、施設の長寿命化を図る向上活動、東日本大震災により被災した農地・農業用施設の復旧を行う復旧活動(平成25年度まで)について支援を行います。本県では、今後とも地域が一

農地・水保全管理支払交付金の構成



ふくしま復旧便 — 県内からのお便り — 平成23年7月豪雨災害を教訓に復旧へ

会津

柳津町農林振興班 横田

日頃より農林事業関係につきまして関係各位にはご指導いただき御礼申し上げます。私は昨年23年4月に現在の業務に就き、原発事故の影響によ



る風評被害対策、各種検査業務を実施していた矢先、新潟・福島豪雨災害が発生しました。私も以前災害業務に携わっていたが、今回の災害は只見川の水位の急激な上昇により被害は只見川沿線の市町村の広範囲に及び箇所数の多さも初めてでした。

また、稲成長期にあたり田への土砂流入や揚水機場への浸水・ポンプ電機系統への泥土堆積等甚大な災害となりましたが、被害調査・灌漑対応・査定準備まで津農林事務所のご指導のもと職員が一丸となって対応しました。また猛暑が続くなか揚水ポンプが作動しない状況が続き、約70haへの灌漑が急務でありましたが、会津農林事務所をはじめ関係機関に様々な対応をしていただき無事給水にこぎつけることができました。



結果、雪解けが遅く施工条件が悪く、農家の方にはご迷惑をかけてしまいました。今後はこうした点を踏まえ、最初から転作をお願いし、条件の良い時期に施工するよう検討して参りたいと考えています。先日猛暑の中、両沼地方の消防ポンプ操法大会がありました。平日頃こうした訓練をすることによって、災害発生時には大いに役立つってくれるものと期待します。

福島県関係各課の紹介 ～農村計画課～

農村計画課長 後藤 庸貴



農村計画課は総員16名、課の平均年齢を押し上げている3名を除き、平均年齢40歳以下というパワフルな若手で構成された3つのチームで、農村整備総室全体の取りまとめを含め様々な業務に取り組んでいます。「土地改良法担当チーム」では、土地改良事業に係る法手続き、土地改良団体の検査・指導や農村整備総室の庶務・会計事務を担当しています。「農村計画担当チーム」では、農村整備総室の公共予算・総合調整、農林水産業振興計画、農業農村整備事業の広報や国土調査事業を担当しています。「調査計画担当チーム」では、農業農村整備事業の調査計画、

小水力発電や東日本大震災復興整備計画に関することを担当しています。この他、震災からの早期復旧に向けた他県等への支援要請業務なども担当しています。東日本大震災により本県の農業農村は大きな打撃を受けました。早期の営農再開に向けた復旧が急務となっていますが、これまで実施してきた農業農村整備事業についても今回の震災を教訓としながら着実に進めていかなければなりません。そのためには、新規採択に向けた調査計画、事業予算の確保、土地改良法手続きの円滑な実施や土地改良区の組織運営基盤の強化が不可欠です。本県農業農村の復

興に向け農村計画課職員一同、「燃える闘魂、総員火の玉はまたSLふくしま復興号の如く力強く」邁進していきたいと考えておりますので、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

復旧・復興に向けて更なる援軍が

榎葉町の避難区域見直しなどにもない、9月から本県への農業土木技術職員の派遣支援がさらに増員されます。

平成24年度9月の派遣支援計画

Table with columns: 管内, 派遣先, 人数(名), 派遣元. Lists dispatch plans for various municipalities like 須賀川市, 相馬市, etc.

派遣技術者メッセージ

今回は、南相馬市において、これまでご支援いただいた皆様から寄せられたメッセージの一部を紹介いたします。

「田んぼに苗が植えられました」「稲刈りが始まりました」というニュースが見られる日を楽しみに待っています。

「がんばろう福島」を合言葉に、皆さん懸命に復興作業をされているので、一日でも早い復興ができることを信じています。

「今回初めて福島に行きました。美しい県でした。もう少し落ち着いたら家族で旅行に行きたいと思っています。」



南相馬市農林水産課の執務室

福島は必ず復興します。災害支援で福島の皆さんと出会ってそう思いました。

今回の派遣で福島県が大好きになりました。次は美しい福島県を見させてください。

福島県がよく市町村をバックアップしているのを感じました。まだまだ、長い戦いが続きます。無理をせずくれぐれもお体に気を付けてください。

震災から一年がたち、体力的にも精神的にもお疲れの事と思えますが、遠くで応援している人間がいることを忘れないでください。



連日行われる復旧工事の打合せ

地域に根ざした水士里ネット「東日本大震災からの復旧への取組み。そして復興へ」



遠藤課長

突然の激しい揺れに始まり、事務机にしがみつくのがやつの状態。長い、やけに揺れが長すぎる。と恐怖に戦った東北地方太平洋沖地震。

沿岸部の農業は岐路に立たされた。午後3時50分頃に襲来した大津波は4.5km内陸部まで到達し相馬市水田の37%（1,135ha）が冠水した。水士里ネットが冠水した。水士里ネットが冠水した。水士里ネットが冠水した。

第10回農業農村整備事業成果発表会を開催

平成24年7月27日に福島県農業総合センター多目的ホールにおいて、第10回目となる農業農村整備事業成果発表会を開催し、関係者約130名が参加しました。

この発表会は、農業農村整備の関係者が、県内共通の課題などに係る知識を習得するとともに、様々な取組みを関係機関に活かしていくための有益な機会であるため、今後も継続して開催していく予定です。



除塩作業後に作付した田んぼ

相馬地方は「二宮御仕法（江戸時代末期に活躍した二宮尊徳の教え）」という受け継がれた教えがある。「御仕法」には至誠（まっすぐで思いやりのある心のこと）・勤勞（熱心に働くこと）・分度（自分にふさわしい生活をする）・推譲（働いて得た余分は将来のために蓄えること）があるが、土地改良区の諸先輩の方々は、「御仕法」のごとく将来の不測

編集後記

相馬野馬追の季節、震災前には青々とした夏の風景が広がっていた相馬太田神社（南相馬市）周辺の田んぼ。昨年は雑草が茂ってしまいましたが、今年は一面にひまわりが咲きそろう。野馬追の騎馬武者たちの出陣を飾りました。



第10回 農業農村整備事業成果発表会

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。